

1 新規就農者向けの支援制度

新規就農時の機械・施設に助成
就農条件整備事業

- 対象者** 市内に就農する認定就農者等
(就農時から5年以内、65歳未満)
- 内容** 次の場合に助成する。
(1) 農協または公社が認定就農者等に対し、就農時に必要な機械・施設を貸与するために整備する場合
(2) 認定就農者等が自ら就農時に必要な機械・施設を整備する場合
- 補助率** 1/2 (事業費上限2,000万円)



市南部では稲作が盛ん

認定就農者に借地料を助成
農地賃借料補助金

認定就農者を対象に農地賃借料を助成
(5年間、限度額20万円/年)

2 移住・定住者向けの主な支援制度

- 子育て** その他 地域子育て支援センターの設置、ファミリーサポートセンターの設置など
- その他** 移住定住窓口の設置 「米子市移住定住窓口」を設置し、「Uターン希望者の相談」に対し、定住に関する情報をワンストップサービスで紹介

白ねぎの食卓革命 ~ 関西の食習慣を変えた鳥取の白ねぎ

Town Topics

「関東は白、関西は青」。ねぎは、千年以上も前に中国から伝わって以来、日本人に親しまれてきた最も身近な野菜の一つ。だが、近年まで東西で異なる食文化が形成されていた。

古くから、関東で食用とされたのは、ねぎの白い部分(葉鞘=ようしょう=葉柄の下が茎を抱いて鞘のようになったもの)で、関西では青い葉の部分。これに伴い、東日本では加賀ねぎや千住ねぎなど、長い葉鞘をもつ「根深ねぎ(白ねぎ)」の品種が現れ、西日本では京都の九条ねぎに代表される「葉ねぎ(青ねぎ)」が広く栽培されたのだ。



白い部分が葉鞘(ようしょう)

関西に近い鳥取県で、もともと生産されていたのは「地ねぎ」と呼ばれる青ねぎ。しかし、明治中期に始まる全国的な品種交流の波を受け、昭和6年、山口県からの導入種に改良を加えた、オリジナル品種「伯州一本太葱」が誕生。これが今の県産白ねぎの原型となった。

その後、県内では新品種の普及に伴い、弓ヶ浜半島の砂地を皮切りに栽培エリアが拡大。昭和40年代後半からは転作作物と

して大山山麓や県東・中部にも広がり、平成19年現在、全国6位の出荷量を誇る西日本では有数の大産地に成長した。

この飛躍の要因としては、まず土層が深く、軟白部分を伸ばすのに必要な「土寄せ」が容易だったこと、そして白ねぎは寒さに直面するほど甘味を増しおいしくなるため、冬が厳しい鳥取の気候が適していたことなどが挙げられる。



市内の干拓地でも栽培が盛ん



日本海側の厳しい冬が甘味の源泉

鳥取の白ねぎは関西方面を中心に出荷され、今や関西人の食卓には欠かせない存在。関西のねぎの食習慣は「青も白も」に変わった。もちろん、この歴史の転換に、米子市内の白ねぎ農家の地道な努力が少なからず関わっていることはいうまでもない。

担当者メッセージ

米子市農林課 荒金 寿光さん

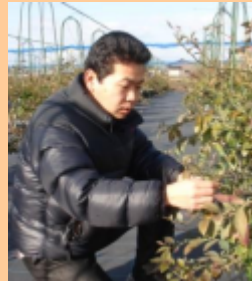


米子市では、白ねぎなどの畑作が盛んな弓浜地区、稲作を中心に果樹園も広がる南部・淀江地区いずれでも農業生産が活発です。担い手育成と耕作放棄地の解消が課題ですが、ここ数年、新規就農の仲間が増加中。市も支援施策の拡充を図る考えですので、ぜひご相談ください。

新規就農者紹介

木村 哲人さん

平成19年6月、県の補助事業を活用しブルーベリー40aの栽培で就農。転職で家族とのふれあいが増えたという。平成21年には市内初のブルーベリー観光農園がオープン。「生でもおいしく安全な果実を楽しんでほしい」と意気込む。



鳥が集い
人が行き交う
息吹の玄関口。

米子水鳥公園は、西日本最大のコハクチョウの集団越冬地。毎年約1,000羽が飛来する

まちの環境と農業

environment & agriculture

気 候

穏やかな気候。コハクチョウも越冬

平均気温は15~16 程度と比較的温暖。冬期は積雪もあるが、県内他地域に比べて穏やか。水辺にはコハクチョウが集団越冬のため飛来する。

地 勢

大半は日野川が形成する平坦地

日本海に注ぐ日野川が南部の平野と北部の砂丘(弓ヶ浜半島)を形成し、市の大半は平坦地。東部は大山山系の山地、西には汽水湖・中海(なかうみ)が広がる。日本海側の海辺には、皆生(かいけ)温泉が湧く。

農 業

白ねぎは県内一の生産量

農業産出額は約67億円(平成18年)。砂丘地帯や干拓地では県内一の生産量を誇る白ねぎのほか、にんじん、葉たばこなどが栽培され、平野部では稲作が中心。

主な農産物

agricultural products

白ねぎ



軟白部分が太い新銘柄も登場

西日本屈指の白ねぎ産地である鳥取県で、第一の生産量を誇るのが米子市。弓ヶ浜半島の砂丘地帯などで周年栽培を行っている。栽培期間中、厳しい風雪を伴う冬を耐え抜くことが、まるやかな甘味の源泉だ。最近では、軟白部分を従来より太くした新銘柄「伯州美人」も登場。出荷時のラベルに、生産者氏名や料理レシピを掲載する工夫が反響を呼んでいる。また、市のキャラクターに採用されるなど、まちのシンボリック的存在として親しまれている。



形良く甘味多いと高評価

にんじんは、有機質に富み水はけの良い砂壤土が最適地。米子市内では弓ヶ浜半島などの砂地で広く栽培されている。市内産は形が良く甘味が多いと市場からの評価も高い。

にんじん



米子市

米子市は江戸時代から商都として栄え、陸海空の交通の要衝である「山陰の玄関口」。まちからは人ばかりでなく、白ねぎなどの特産物が飛び立ち、水鳥も集い憩う。「こは」は、みずみずしい生命の息吹が行き交う「交流の扉」なのだ。

【よなご・し】

BASIC DATA

人 口	148,873人(H21)
農業就業人口	4,384人(H17)
面 積	13,221ha(H21)
経営耕地面積	2,618ha(H17)
特産品	白ねぎ、にんじんほか



お問い合わせ先

米子市農林課

〒683-8686 鳥取県米子市東町161-2

☎ 0859-23-5231

http://www.yonago-city.jp/